

裁判所書記官 ～裁判を支える法律専門職として～

「裁判所書記官」という職業を聞いたことがありますか？

ニュースやドラマで、裁判所の法廷が映っている場面を見たことはありますか。壇上に座っている裁判官の下で黒い法服を着て座っているのが裁判所書記官です。

裁判所書記官は、民事や刑事、家事、少年のすべての事件で、裁判を始め、審判や調停、破産、競売、強制執行など、あらゆる場面で活躍し、法律に関する専門知識と固有の権限を持つ専門職です。

裁判所書記官は、法廷の中で、あるいはそれ以外の場面で、どのような役割を果たしているのでしょうか。



secretary bird
(書記官鳥)

法廷の裁判所書記官 ～適正な裁判を支えるために～



裁判は法律に従って適正に行われる必要があります。

法律に従って適正に手続が進められていることを証明するためには、裁判でのやりとりを残しておく必要があります。もっとも、裁判の場では、基本的に口頭でやり取りが行われるため、裁判の期日においてどのような手続が行われたのか、その手続の経過を明らかにするためには、記録として残す必要があります。この記録が「調書」であり、裁判の適正さを保つ1つの方法です。

調書は、裁判手続が適正に行われたことを証明する「証明書」ですから、裁判を行う裁判官とは別の独立した専門職が、証明者としての役割を専門に担う必要があります。この調書を作成する権限を持つのが、裁判所書記官です。裁判手続の経過を公に証明することから、「公証機関」とも呼ばれます。

調書は、裁判の場で行われたやり取りをただ記録するものではありません。

裁判所書記官は、法廷などで行われたやり取りを、法律で求められている手続や争いとなっている点がどこかを考えながら、高度な法的知識を使って整理して、調書を作成します。



法廷の外の裁判所書記官 ～迅速な裁判の実現を目指して～



裁判所書記官の仕事は、法廷に立ち会うだけではありません。

たとえば、裁判を迅速に進めるためには、裁判の関係者が、必要な準備を事前に行うことが欠かせません。

そのために、裁判所書記官は、裁判手続の進め方について、裁判官と協議をし、弁護士や検察官などに裁判を進める上で必要な準備を促したり、提出された書面に不備等がないかといった検討を行ったりします。

また、裁判手続に関する問合せに回答したり、手続案内を行ったりすることもあります。

このように、裁判所書記官は、迅速な裁判を実現するため、裁判所と裁判の関係者をつなぐ役割を担い、裁判の運営に深く携わっています。



～時代のニーズに応える～

例えば、認知症等の方を法的に支援するための後見制度が活用されているというニュースを耳にしたことがありませんか。また、経営不振の会社が再建のために民事再生手続等を利用したという新聞記事を目にしたことはありませんか。これらはいずれも裁判所書記官が支えている手続の1つです。

社会の高齢化や景気の動向など、社会の状況がめまぐるしく変化し、色々な分野で法改正が進む中、時代のニーズに応えられるよう、裁判所書記官は法廷以外でもその高い専門知識を活かして活躍しています。

裁判所書記官に興味のある方は、裁判所ウェブサイトの
裁判所職員の採用試験に関する案内をご覧ください。

<http://www.courts.go.jp/saiyo/index2.html>

※ 検索サイトからは「裁判所 採用」で検索